

合の指導的精神に於ては特に異彩特色に富むものがある。彼の友愛會が最も過激に直接行動を力説し、最も非現實的理想的革命氣分に浸つたもの正にこの頃であり、その中央委員會に提出された「議會主義の直接行動」の議題も「今更ら議會の必要を見が」と一蹴し去り、堂々と普選反對、國際労働會議反對の意思を表明したのも實にこの當時であつた。

斯く革命的サンジカリズムの色彩熾烈な労働組合運動の急激なる跳梁を迎へた我國の事業主の大多數が、これに對して如何に恐怖狼狽したかは言ふ迄もない。此間政府の政策乃至取締にも幾多の急速度な變化と動搖とが繰返されるに至つた。爾來今日に至る諸方面の變遷推移を回想するに、思想に、運動に、立法に、施

設に、凡ゆる社會運動の局面に於て、歐洲先進國が殆んど數十年の歲月を要した大變動の經過、混乱焦燥の氣分を、この短日月に經驗せるか如き感を抱かせるものがある。

社會科學の研究も此間に殆んど未曾有の盛觀を呈じ、各種思想團體は隨所に組織せられ、諸局面の問題の究明に著大なる進歩貢獻を與へてきた。就中労働運動については迂餘曲折最も甚だしきものがあつたが、大震災前後よりして、議會主義を承認し漸進主義をスロウカンとする者漸次に増大し、全体としての傾向が著しく現實的となつて来たことはその最大の徴候と目され得る。

更らに此間に於ける政府の社會政策的立法對策を概